

◆7 番（内田昇委員） それでは、2 点について質問させていただきます。

まず、21 ページ、ふるさと納税についてでございます。

ふるさと納税の収支がまだ黒字になっていないということでございますが、返礼品というのは、具体的にはどんなものが用意されているのですか。

○中島正和委員長 鳥海政策調整課長。

◎鳥海和彦政策調整課長 加須市を応援していただける方に対するお礼ということなので、特産品であるというのが重要になるのですけれども、人気があるものを紹介させていただきますと、大利根にあるアイワイフーズさんが作っている冷凍餃子、これがポータルサイトに上げたところ、おいしいという口コミが広がり、かなり人気が出てしまったのがまず 1 つ。冷凍餃子もいろいろ、肉餃子とか野菜餃子とかミックスとか、いろいろ変化させて、何か魅力を感じるようなものをアイワイフーズさんも考えて出していたりして、そういうものも努力が見受けられます。

それから、新しく新規に参入した吉野家さんの牛丼もかなり人気があります。大利根に工場があるのですが、今はポータルサイト 1 か所だけなのですが、今月中にはほかの 3 つのポータルサイトでも掲載される予定です。

それから、バスクチーズケーキ、これはパサルキッチンさんで作っているケーキなのですけれども、そういうものとか、また、湖池屋さんで作っているポテトチップス。今現在で 359 品目あります。納税していただける方が加須市の返礼品どうなのかなというのを見てもらうには、やはり返礼品が多い方がいいということで、開発に努めているところでございます。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7 番（内田昇委員） その中で、加須市の特産品であるこいのぼりは入っていますか。

○中島正和委員長 鳥海政策調整課長。

◎鳥海和彦政策調整課長 これが、私たちも一度こいのぼりの業者さんにお話をさせていただきましたが、そこまで手が回らないということで、交渉が終わってしまった経緯がございます。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） 残念ですね。

そういう品物の選定というのは、もちろん地場産というのはあると思うのですが、基準はあるのですか。

○中島正和委員長 鳥海政策調整課長。

◎鳥海和彦政策調整課長 ホームページにも返礼品の事業者としての募集を載せておりまして、事業者から、うちのは対象になるかということで、開発できるときもありますし、私たちから、あそこに新しい店できたけれども、どういふのを作っているのかということで調査したり、またライオンズ・レディーズさんの方で、企業等と一緒にいってもらったりなど、いろいろ商品を創設するということはやっております。

基準というのは、先ほどいふた総務省から出ている特産品であること、主に加工するとしても、主要なという言い方をするのですが、加須市で大半を作っているとか、そういうものでないと登録できないというのがありますので、そこは、きちっと照らし合わせて選ぶようにしております。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） 北川辺のお米とかというのは当然入っていますよね。

○中島正和委員長 鳥海政策調整課長。

◎鳥海和彦政策調整課長 入っております。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） やはり収穫の時期によって、そういうものって伸びるのですか。新米の時期とかいふと、殺到するとか。

◎鳥海和彦政策調整課長 それは伸びますね。

お米は、年間通じて需要があるようです。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） 分かりました。

県内でふるさと納税の1番というのが北本市だと聞いております。私の感覚ですけれども、北本市と加須市を比べてみると、加須市の方がイメージというか、地の利というか、そういうのが圧倒的に強いような気がするのですが、北本市が1番ということは、相当頑張っているなという気がしてならないのです。したがって、当然加須市としては、まずは県内で1番を目指しているわけですね。

○中島正和委員長 鳥海政策調整課長。

◎鳥海和彦政策調整課長 1番を目指しているというより、伸ばしていきたいという気持ちはあります。

先ほど北本市の話が出ましたが、北本市で1番何が出ているかという、紳士服の英國屋さんという、紳士服を仕立てる会社がありまして、仕立て券と聞いております。これは郵送費がさほどかからないのです。

郵送費、券を送るだけなので。

なので、利が上がる。

加須市の場合、冷凍餃子や牛丼など、クール便で送らなくてはいけないのです。そうすると、経費がかかるのです。しかも企業さんの努力で安くやりたいということなので、薄利多売ではないですけれども、経費があまりかからないところは結構伸びたり、あと、やはり魚介類が強いのです北海道など。そういう名産みたいなものがあるところには、なかなか加須市は、いろんなことを商品開発しているのですけれども、さっきおっしゃられたお米とか、議会でもお話があったお墓の管理とか空き家の管理とか、いろいろ工夫を凝らしてやっているのですが、なかなか経費がかかったりするのマイナスに働くときがあるので、経費がかからないものを頑張って作るというよりも、やはり加須市らしさを出していきたい。当然人気が上がれば、それは私たちもうれしいのですが、やはり加須市を知ってもらうためには、いろんな工夫をして、加須市のよさを出していくのが、ふるさと納税の意義なのではないかなと、私は思っております。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） いろいろなそういう伸ばしているところを、今言ったように研究して、できればもっと倍増するように頑張ってください。

こいのぼりももう一回やってみてください。

次に、25 ページの創業支援について伺います。

創業支援について、100 万円を上限としてということと商工会の方でそういう創業のアドバイスをして、セミナーをして、サポートをして、出店させると。独立開業というのが普通だと思うんですが、出店が、どこら辺の地域に多いのか、それともう一つは、業種はどういうものがあるのか、分かる範囲でお願いします。

○中島正和委員長 橋本産業振興課長。

◎橋本敬之産業振興課長 どこからの申請が多いかというところなのですが、本会議の中でもお話ししましたとおり、今のところ6件が交付決定になっております。その場所については、大利根地域の北下新井、加須地域の不動岡、中央二丁目、騎西地域でいうと、正能、また、現在交付決定しているのは加須地域の大門町、そういったところです。

業種については、本会議でもお話ししたとおり、総務省による日本標準産業分類の小分類ですと、1件が菓子・パン小売業、また、もう1件がその他の専門サービス業、機械器具小売業が1件、あと喫茶店が1件、獣医業が1件、あと美容業が1件という形になります。

以上です。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） なぜ質問をしたかというところ、この4年間のコロナ禍でそういう小規模な事業者がかなり辞めております。その中でも飲食店関係はかなり多くて。加須市の住みやすさという面から考えると、非常に普段の生活する中では、かなり厳しいというか、あまりいい点数をもらえないような立地が変わってしまったと。私は騎西に住んでいるのですが、騎西は特に、前は宴会場も3つも4つもあったり、あるいは飲食店も結構選ぶくらいいっぱいあったわけです。

したがって、創業支援というのは、今後もやはり力を入れてやっていただきたい。また、その後の追跡調査というか、1回補助金を頂いた業者がどうなっているかというところは、分かる範囲でお願いします。

○中島正和委員長 橋本産業振興課長。

◎橋本敬之産業振興課長 こちらのお話も本会議でもお話ありましたが、これについては、補助金の交付をした後に2年間、その翌年とまた2年目について、加須市の創業支援補助金フォローアップ委員会の設置要綱というのを作っておりますので、そちらに基づきまして、経済部長、産業振興課長、加須市商工会の事務局長、商工会の経営支援員の計4名の委員によって委員会を開催いたします。

その中でフォローアップの内容としましては、先ほども申し上げました要綱に基づきまして、補助事業が完了した年度の次の年度と2年目の1回ずつ、計2回を当初の事業計画書を出していただきますので、それに基づきまして、見通しと現況、1年目と2年目の現況、その辺の売上げ等を確認をいたしまして、それを把握した上で、もし計画の達成が見込まれなかった場合については、商工会と連携しながら、相談に乗りながら、その後の経営の改善を図っていくというところで進めてまいります。

以上です。

○中島正和委員長 内田委員。

◆7番（内田昇委員） 町の魅力というのは、子育てとか、福祉とか、高齢者の対応とか、いろいろあります。その中の1つとして、遊びの分野というか、特に食というのは、この加須市を選んでいただくためには、かなり重要なキーワードになってくると思います。

この提案で終わりますが、スーパーシティ構想の方に当然飲食店とかカフェとかというのは入るわけですね。市で予算をつけて、そういう創業する人のどなたかに優先的にそこをあてがうみたいな、そういうことも1つの話題としては面白いのではないかと思うのです。優先的に、こことこの店舗はそういう形で創業者向けというような仕組みをつくって、そういうことも1つの提案として申し上げて、質問を終わります。

ありがとうございました。